

2025年6月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2025年5月8日

上場会社名 株式会社 ホーブ
コード番号 1382 URL <https://hob.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 政場 秀
問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理部長 (氏名) 馬場 文秀
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
TEL 0166-83-3555

(百万円未満切捨て)

1. 2025年6月期第3四半期の連結業績(2024年7月1日～2025年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年6月期第3四半期	2,039	5.5	63	1.7	64	1.7	43	14.5
2024年6月期第3四半期	2,157	2.0	62	55.7	63	55.6	37	62.3

(注) 包括利益 2025年6月期第3四半期 43百万円 (14.5%) 2024年6月期第3四半期 37百万円 (62.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年6月期第3四半期	56.52	—
2024年6月期第3四半期	49.38	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年6月期第3四半期	1,105	774	70.1	1,016.98
2024年6月期	1,123	769	68.5	1,010.46

(参考) 自己資本 2025年6月期第3四半期 774百万円 2024年6月期 769百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年6月期	—	0.00	—	50.00	50.00
2025年6月期	—	0.00	—		
2025年6月期(予想)				50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年 6月期の連結業績予想(2024年 7月 1日～2025年 6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,411	4.3	62	91.2	63	66.8	43	119.4	57.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
新規 — 社（社名）、除外 — 社（社名）
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有
詳細は、添付資料8ページ「2.四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
以外の会計方針の変更：無
会計上の見積りの変更：無
修正再表示：無
- (4) 発行済株式数(普通株式)
期末発行済株式数(自己株式を含む)

2025年6月期3Q	762,000 株	2024年6月期	762,000 株
2025年6月期3Q	318 株	2024年6月期	318 株
2025年6月期3Q	761,382 株	2024年6月期3Q	761,682 株

期末自己株式数
期中平均株式数(四半期累計)

添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等は、添付資料3ページ「1.経営成績等の概況(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9

1. 経営成績等の概況

（1）当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、景気に緩やかな回復基調が見られるものの、ウクライナ情勢の緊迫が長期にわたっていることに加え、世界的な資源価格の値上がり、物流コストの高騰や円安が大幅な物価上昇を招くなど、先行きが不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループにおきましては、自社品種「夏瑞／なつみずき」（品種登録名「ペチカほのか」）の生食用販売、業務用販売を中心に、いちご果実及びその他青果物の販売に注力してまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高2,039,483千円（前年同期比5.5%減少）、営業利益63,431千円（前年同期比1.7%増加）、経常利益64,809千円（前年同期比1.7%増加）、親会社株主に帰属する四半期純利益43,050千円（前年同期比14.5%増加）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

（いちご果実・青果事業）

いちご果実・青果事業の主力商品は業務用いちご果実であります。当第3四半期連結累計期間においては、夏秋期は「夏瑞／なつみずき」（品種登録名「ペチカほのか」）、「コア」（品種登録名「ペチカエバー」）などの自社開発品種と輸入いちごを、その後は国産促成いちご（とちおとめ、紅ほっぺなど）を主に販売しております。

自社品種の出荷時期となる夏秋期については、「夏瑞／なつみずき」の販売が引き続き好調に推移いたしました。しかしながら、本州を中心とした猛暑の影響で、他品種も含めた国産いちごの出荷数量が8月後半から減少いたしました。自社品種の主力産地である北海道については、前年ほどの厳しい残暑はなかったものの、高齢化による自社品種の栽培面積の減少もあり、夏秋期の国産いちごの取扱数量は前年に比べ減少いたしました。

12月のクリスマス時期にかけては、猛暑により促成いちごの定植が全国的に遅れたものの、秋の気温が高めで推移し、促成いちごの生育は前進傾向となりました。クリスマス前の寒波の影響も重なったことで、12月中旬のいちご果実の市場への入荷量は減少し、特に西日本で品薄の状況が続きましたが、この状況を事前に想定し、全国の生産地から計画的な調達を行うことができました。原材料の高騰等による取引先のいちご果実の使用数量の減少で、売上高は前年に比べ減少したものの、市場相場価格が高騰した西日本に供給できたことで、利益は確保することができました。

年明けから2月までは、市場へのいちご果実の入荷量が少なく、市場相場価格は前年に比べ高値で推移いたしました。3月に入り入荷量が増加し、市場相場価格は下がったものの、2月までの相場高の影響が大きく、事前に販売価格を取り決めていた取引先に対しては利益が圧縮される結果となりました。

その他の青果物におきましては、コンビニエンスストアをはじめとした既存取引先において、フルーツの使用量が減少したことで、売上高、利益ともに前年同期を下回りました。

この結果、いちご果実・青果事業の売上高は1,825,896千円（前年同期比5.0%減少）、営業利益は152,087千円（前年同期比5.4%増加）となりました。

（種苗事業）

種苗事業は、自社いちご品種の「ペチカほのか」（商品名「夏瑞／なつみずき」）と「ペチカエバー」（商品名「コア」）の生産販売を主力としております。栽培方法には、秋に苗を定植し翌年春から秋にかけて果実を生産する秋定植と、春に苗を定植し夏から秋にかけて果実を生産する春定植の、概ね2体系の作型があります。当第3四半期連結会計期間においては、秋定植用苗の販売を終え、春定植用苗の販売を行っております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、種苗の販売本数は増加したものの、いちご新品種の共同開発業務が終了したことで、売上高、利益ともに減少いたしました。

この結果、種苗事業の売上高は39,323千円（前年同期比24.8%減少）、営業利益は8,290千円（前年同期比69.0%減少）となりました。

（馬鈴薯事業）

馬鈴薯事業は、主に種馬鈴薯の生産販売、仕入販売と、青果馬鈴薯の仕入販売からなります。主要売上品である種馬鈴薯には、秋から春にかけて販売する春作と夏に販売する秋作の2体系がありますが、そのメインは春作種馬鈴薯です。当第3四半期連結会計期間におきましては、主に春作種馬鈴薯の販売を行っております。

秋作向けにおいて前年の原種生産の不作により本年の種馬鈴薯の生産面積が減少したことに伴い、種馬鈴薯の供給が不足することとなり、販売数量が減少いたしました。春作向けにおいては取扱い数量が減少したものの、仕入価格の上昇に伴う販売価格の見直しを行ったことで、利益は確保することができました。

この結果、馬鈴薯事業の売上高は72,554千円（前年同期比0.8%減少）、営業利益は7,076千円（前年同期比196.2%増加）となりました。

（運送事業）

運送事業は、株式会社エス・ロジスティックスが行っております。関東圏を中心とした事業展開で当社の商品配送を中核としつつ、一般荷主からの配送業務受託も行っております。当第3四半期連結累計期間におきましては、受託業務の見直し、集約を進めたことで、売上高は前年同期を下回りました。利益につきましては、引き続き利益率が高く、効率の良い配送を自社配送に切り替えを進めたことで、外注費の圧縮を図ることができ、前年同期を上回ることができました。

この結果、運送事業の売上高は101,709千円（前年同期比8.6%減少）、営業利益は17,463千円（前年同期比33.5%増加）となりました。

（2）当四半期の財政状態の概況

①財政状態の状況

（流動資産）

流動資産は、前連結会計年度末と比較して51,924千円減少し、当第3四半期連結会計期間末で932,968千円となりました。これは現金及び預金が増加したものの、売掛金が減少したことが主因であります。

（固定資産）

固定資産は、前連結会計年度末と比較して33,674千円増加し、当第3四半期連結会計期間末で172,623千円となりました。これは投資その他の資産が増加したことが主因であります。

（流動負債）

流動負債は、前連結会計年度末と比較して27,405千円減少し、当第3四半期連結会計期間末で177,626千円となりました。これは未払法人税等が増加したものの、買掛金が減少したことが主因であります。

（固定負債）

固定負債は、前連結会計年度末と比較し4,189千円増加し、当第3四半期連結会計期間末で153,353千円となりました。

（純資産）

純資産は、前連結会計年度末と比較して4,966千円増加し、当第3四半期連結会計期間末で774,611千円となりました。なお、自己資本比率は前連結会計年度末の68.5%から70.1%となっております。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、2025年2月6日の「2025年6月期第2四半期決算短信」で公表いたしました予想数値から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	351,517	633,594
売掛金	578,454	245,309
棚卸資産	36,516	45,232
その他	18,461	8,855
貸倒引当金	△56	△23
流動資産合計	984,893	932,968
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	37,939	35,764
機械装置及び運搬具（純額）	14,254	22,356
土地	37,400	37,400
その他（純額）	2,169	1,803
有形固定資産合計	91,763	97,323
投資その他の資産		
その他	47,185	75,299
投資その他の資産合計	47,185	75,299
固定資産合計	138,948	172,623
資産合計	1,123,842	1,105,592
負債の部		
流動負債		
買掛金	139,639	97,207
1年内返済予定の長期借入金	3,996	3,996
未払法人税等	6,605	19,831
賞与引当金	—	4,726
その他	54,791	51,864
流動負債合計	205,032	177,626
固定負債		
長期借入金	4,016	1,019
退職給付に係る負債	44,328	48,138
役員退職慰労引当金	97,630	101,005
その他	3,190	3,191
固定負債合計	149,164	153,353
負債合計	354,196	330,980

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	421,250	421,250
資本剰余金	110,791	110,791
利益剰余金	237,997	242,964
自己株式	△393	△393
株主資本合計	769,645	774,611
純資産合計	769,645	774,611
負債純資産合計	1,123,842	1,105,592

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2024年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年7月1日 至 2025年3月31日)
売上高	2,157,951	2,039,483
売上原価	1,695,938	1,587,018
売上総利益	462,013	452,465
販売費及び一般管理費	399,656	389,033
営業利益	62,357	63,431
営業外収益		
受取利息	6	315
助成金収入	180	397
その他	1,472	838
営業外収益合計	1,659	1,551
営業外費用		
支払利息	83	173
為替差損	181	—
営業外費用合計	264	173
経常利益	63,752	64,809
特別利益		
固定資産売却益	841	1,410
特別利益合計	841	1,410
税金等調整前四半期純利益	64,593	66,219
法人税等	26,979	23,169
四半期純利益	37,613	43,050
親会社株主に帰属する四半期純利益	37,613	43,050

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2024年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年7月1日 至 2025年3月31日)
四半期純利益	37,613	43,050
四半期包括利益	37,613	43,050
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	37,613	43,050
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。ただし、見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しております。なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2024年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年7月1日 至 2025年3月31日)
減価償却費	13,254千円	14,440千円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

Ⅰ 前第3四半期連結累計期間（自2023年7月1日 至2024年3月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	いちご果 実・青果	種苗	馬鈴薯	運送			
売上高							
一時点で移転される 財又はサービス	1,921,348	31,437	73,107	111,226	2,137,120	—	2,137,120
一定の期間にわたり 移転される財又はサ ービス	—	20,831	—	—	20,831	—	20,831
顧客との契約から生 じる収益	1,921,348	52,269	73,107	111,226	2,157,951	—	2,157,951
外部顧客への売上高	1,921,348	52,269	73,107	111,226	2,157,951	—	2,157,951
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	98,988	98,988	△98,988	—
計	1,921,348	52,269	73,107	210,214	2,256,940	△98,988	2,157,951
セグメント利益	144,327	26,748	2,389	13,085	186,550	△124,193	62,357

(注) 1. セグメント利益の調整額△124,193千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自2024年7月1日 至2025年3月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	いちご果 実・青果	種苗	馬鈴薯	運送			
売上高							
一時点で移転される 財又はサービス	1,825,896	39,323	72,554	101,709	2,039,483	—	2,039,483
一定の期間にわたり 移転される財又はサ ービス	—	—	—	—	—	—	—
顧客との契約から生 じる収益	1,825,896	39,323	72,554	101,709	2,039,483	—	2,039,483
外部顧客への売上高	1,825,896	39,323	72,554	101,709	2,039,483	—	2,039,483
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	99,144	99,144	△99,144	—
計	1,825,896	39,323	72,554	200,853	2,138,627	△99,144	2,039,483
セグメント利益	152,087	8,290	7,076	17,463	184,917	△121,486	63,431

(注) 1. セグメント利益の調整額△121,486千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。